

## 見どころ案内

### 展示会のご案内

◇展示資料館 1F (9/19~10/14)

私の好きな花たちの写真展

◇展示温室 (9/7~9/26)

薬用植物展

### キクイモ (キク科)

北アメリカ原産の植物で、日本には江戸時代に伝来しました。繁殖力が強いので各地で群落を見ることができます。

過去に飼料作物として利用されていたため、ブタイモと呼ばれることもあります。

多糖類イヌリンを多く含むことから、過去に何度か健康食材としてテレビなどで紹介されました。

### 食用菊(延命薬) (キク科)

山形では「もつてのほか」という名前で栽培されている紫花の食用菊です。名前の由来として、「天皇の御紋である菊を食べるなどもつてのほかだ」という説があります。

### セトウチギボウシ

(ユリ科)

山口県周防大島辺りに自生するギボウシで、葉は円形で葉の裏側が白色です。絶滅危惧種に指定されています。

### オーストラリアバオバブ

(アオイ科)

大温室のシンボルツリー、バオバブの花が今年初めて開花しました。まだ、つぼみもいくつかついていますので、三連休中に見頃になる予定です。

### ホウキグサ (ヒユ科)

緑色のボールのようですが、秋が深まるにつれて赤く紅葉します。和名のホウキグサは、昔この茎を乾燥させてほうきを作ったことにちなみます。別名ホウキギ、コキアともいいます。

なお、この実を加工したものが、畑のキャビアと呼ばれる「とんぶり」になります。

### 薬用植物展

薬用植物を約200点展示し、薬効について紹介しています。今年はクチナシやカンアオイに関する展示も行っています。ウコンの花など普段あまり見られないものも見ることができます。

### ツキミソウ (アカバナ科)

メキシコ原産の植物で江戸時代にマツヨイグサ等と一緒に観賞用として導入されました。夕方から白い花を咲かせ、朝にはピンク色になり、しばむ一夜花です。適応性が弱く、野生では見られないため、野生化してよく見られるオオマツヨイグサ等がツキミソウと勘違いされていることがあります。

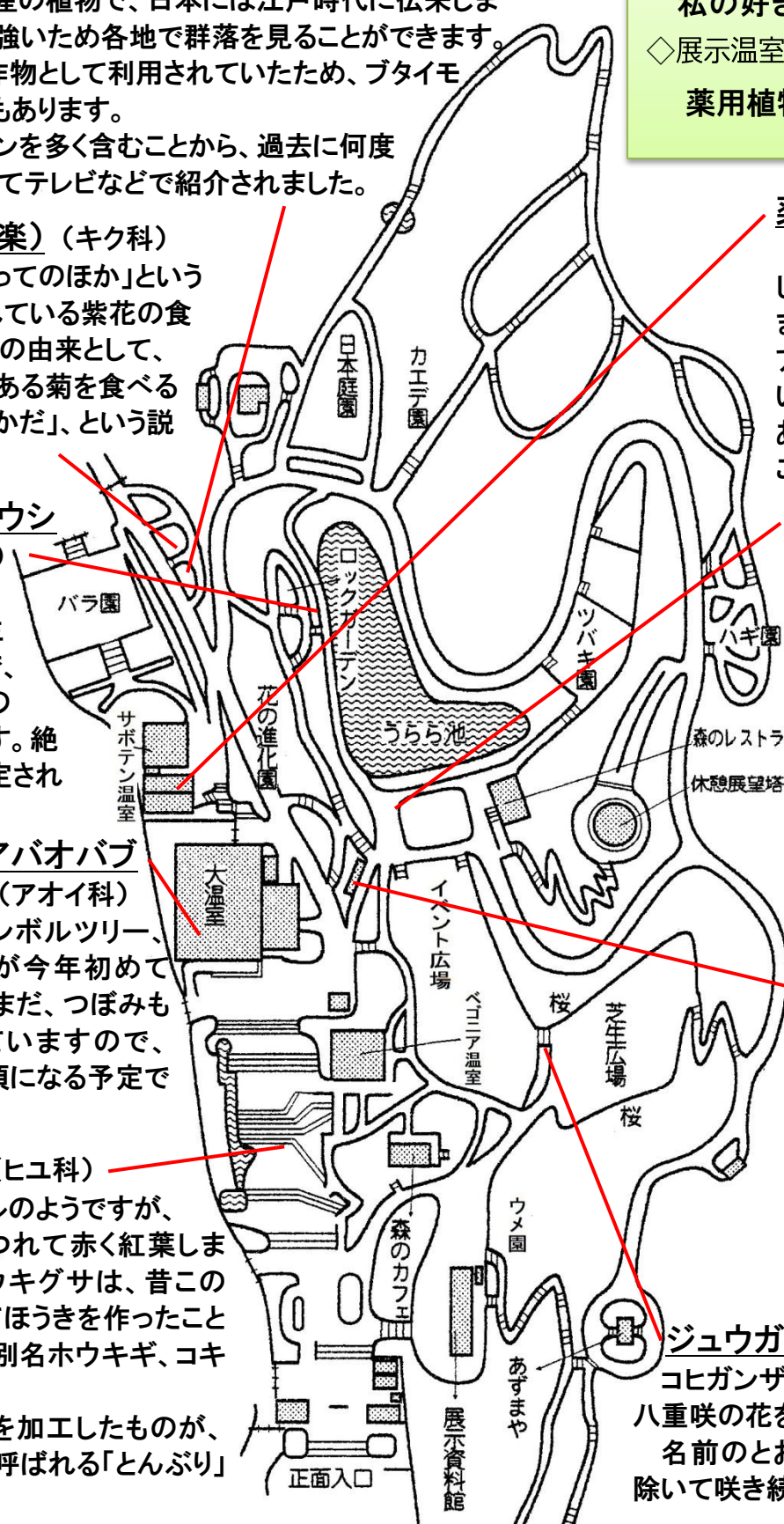
### ヨルガオ (ヒルガオ科)

夕顔(ユウガオ)の名前で販売されることもありますが、かんぴょうの原料であるウリ科のユウガオと同名なので、しばしば混同されています。夕方から咲きはじめ、スズメガのなかまが受粉する虫媒花です。

### ジュウガツザクラ (バラ科)

コヒガンザクラの園芸品種で、淡紅色で八重咲の花を咲かせます。

名前のとおり秋口から春まで厳冬期を除いて咲き続けます。



♣毎週土・日曜日・祝日 午後1時半~3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内します♣

♣毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時~は、職員による植物うんちくガイドを実施します♣